

## 第6回コウノトリ未来・国際かいぎ 『兵庫・豊岡宣言』

日本では、2005年の放鳥以来、コウノトリの命の力と様々な方々の努力と取組みによって、野外のコウノトリは260羽を超え、繁殖地は7府県にまで広がっています。

海外でも、保護活動の進展と野生復帰により、コウノトリの数は増え続けています。

ところが、生息数と生息域が拡大する中で、電線などへの衝突、交通事故により死亡する例が増えており、新たな課題も出てきています。

私たちはコウノトリと共に生きることを決意し、保護増殖だけでなく環境整備、環境と経済の両立、次世代育成と、様々なことに取り組み、コウノトリと共に生きる在り方を示してきました。

100年前、天然記念物に指定されてから、50年で消えた命のともしびを、その後、50年かけて取り戻し、今この場所に立っています。

私たちは、第6回コウノトリ未来・国際かいぎを通して、多くの先人の弛まぬ努力、大きな愛情に支えられた支援、そして未来への願いがあって、この素晴らしい“コウノトリもいる風景”を見ているのだと、あらためて感じることができました。

そして、コウノトリが命を育む地域の人たちと話し、共に考え、自分たちにとって大切なことを見つけました。

コウノトリと共に生きる私たちが進む道では、人と自然や生きものとの間で様々な葛藤やすれ違い、矛盾が生まれます。その時、自然や生きものに対して私たちが取る態度や行動によって、地域の未来が決まっていきます。

コウノトリを再び絶滅の道に追いやることではありません。それは、私たち自身の暮らしや命を脅かすことになるからです。コウノトリでつながった地域が取組みを続け、こころを一つにし、人やコウノトリをはじめとする多くの命をつなげて「共に生きる社会」を作っていかなければなりません。

今、このコウノトリが生きている風景の先に、確かな未来があると信じます。

私たちは未来へ向け、今ここに宣言します。

2021年10月31日

【宣言者】豊岡 大井 琴華